

## 馬毛島基地建設工事の本体着手に抗議する(談話)

2023年1月13日  
安保破棄中央実行委員会  
事務局長 東森英男

政府・防衛省は12日、鹿児島県西之表市の馬毛島に、米空母艦載機部隊が陸上離着陸訓練(FCLP)の移転などを行なうための自衛隊基地建設の本体工事着手を強行しました。

私たちは、地元住民の「基地建設反対」の声を無視して、アメリカの軍事戦略に追随して軍事基地建設を強行する岸田政権に強く抗議し、中止を求めます。

今回の工事着手が、日米安全保障協議委員会(2プラス2)に合わせて行なわれたものであり、アメリカの要求に追従した点も重大です。

馬毛島に基地が建設されFCLPが実施されれば、種子島の1市2町をはじめ周辺住民に深刻な騒音被害や軍用機墜落などの危険やなどがもたらされるだけでなく、漁場が失われ漁業者が生業を失う重大な事態となります。この点については、防衛省が本体工事着手と同日に発表した環境影響評価(アセスメント)の評価書によっても、FCLPは年間最大5356回の飛行を想定しており、訓練は午前3時ころまでに及ぶとされていることから明らかです。

それゆえに、地元の西之表市では2017年と2021年の市長選挙で馬毛島の軍事基地化に反対する候補が勝利してきました。

これに対して政府・防衛省は、「基地再編交付金」を背景として島民への恫喝を強めてきました。この背景にあるのは、昨年12月に閣議決定が強行された「安保3文書」改定による「戦争国家」づくりであり、日米軍事一体化による南西諸島の軍備強化です。

地元では、「馬毛島への米軍基地建設に反対する市民・団体連絡会」を先頭に粘り強いたたかいが続けられており、基地建設を強行する岸田政権と、これを容認する鹿児島県当局への抗議行動に立ち上がっています。

私たちは、地元みなさんと連帯し、「戦争国家」づくりに反対するたたかいと結んで、基地建設工事中止を求めて運動を広げる決意です。

以上